

大学教育への多彩なサポートで、時代のニーズに応える 活力ある大学を創出する教育・研究支援プログラム

全学教育貢献賞

全学教育（教養教育）における授業およびその支援、教育方法およびその支援等について優れた業績を挙げた教職員や、創意工夫に溢れる取り組みにより大きな教育上の成果を挙げた教職員を表彰している。

文学研究科 教授 阿部 恒之

社会科学科目の中でも学生の授業に対する満足度、理解度が高く、授業評価においても非常に高い評価を得た。このことから、全学教育に貢献していると評価された。



国際文化研究科 准教授 勝山 稔

基幹科目の「文学の世界」で、学生の内発的な動機付けを重視した授業実践の工夫を取り入れて教育の効果をあげ、授業評価においても非常に高い評価を得た。



医学系研究科 准教授 樋口 博信

長きにわたって、本学の保健体育（実技）の授業を担当し、特に質の高いテニスの授業を展開し、学生の授業評価の満足度も非常に高い評価を得ている。



総長教育賞

授業・課外活動・国際交流などの指導・教育方法・支援において、誠意と熱意をもって職務に取り組み、優れた教育の成果を挙げた教職員について、教育の貢献を高く評価し、表彰を行っている。

理学研究科 「先端的数学・物理学の英才教育プロジェクト」 運営委員会

文部科学省「理数学生応援プロジェクト」を活用し、学科間の相互教育・短期留学プログラム・専任助教による特別演習などを実施。理数に優れた学生の人材育成に大きく貢献した。



農学研究科 教授 米倉 等

インドネシアとの国際交流分野において、「大学間協定の締結」「ダブルディグリープログラムの構築」「文系短プロでの授業や学生指導」を積極的に推進し、本学教育の国際交流発展に大きく貢献した。



国際文化研究科 准教授 勝山 稔

人文科学分野での全学教育科目の授業を担当し、学生の内発的な動機付けを重視した授業を実施し、教育の効果をあげ、学生に高い評価を得た。



工学研究科 教授 田中 仁 教授 米本 年邦

ポートフォリオ（学習等達成度記録簿）による修学指導のためのシステム構築と事業推進を、学内で先駆けて取り入れたことが高く評価された。



PEM資格教育プログラム実施委員会

GCOEの教育プログラムを通じて、環境分野で高い総合力を持った博士課程学生を育成。本学の博士課程教育の発展に大きく貢献した。



国際連携を活用した大学教育力開発の支援拠点

東北大学高等教育開発推進センターは、東北地域をはじめとする国内各教育機関に向けて、教職員の質的向上を図るために2010年3月に文部科学省より教育関係共同利用拠点として認定を受けた。本拠点では、世界水準に対応した大学教育改革のために、国際連携を活用して、組織的な教育開発と大学教員を志向する大学院生・大学教員の各キャリアステージに対応し、専門性開発プログラムを提供している。

各種の国際連携を進めてきた実績をいかし、カリフォルニア大学バークレー校（アメリカ）、メルボルン大学（オーストラリア）、クィーンズ大学（カナダ）など海外の大学と連携し、調査研究・プログラム開発・プログラム実施を一体的に進めている。



大学教員準備プログラムの海外研修（メルボルン大学）

学部横断型少人数教育「基礎ゼミ」と成果発表会

新入生のほとんどが初年次の第一セメスター（学期）に履修する「基礎ゼミ」は、これまでの詰め込み型「受験学習」から、「大学での学び」へ転換させることを目的としたプログラム。全学部・研究科、研究所、研究センター、大学病院に所属する教員のほか、名誉教授など毎年200名を超える教員がそれぞれ一定数のクラスを担当する全学的支援体制の下で運営されており、約150のテーマが提供されている。

15名平均の学部横断型クラスでは実験をはじめとした多様な授業内容が展開され、学生は課題の調査、研究、発表、討論のプロセスを経て、自発的な「大学での学び」を体得する。

基礎ゼミは所属学部、専門分野を問わない学部横断型クラス編成をとり、できるだけ所属学部の専門性とかわれず、興味のある授業を選択できるような体制をとっている。また、脱講義型・体験実習型の授業を進めており、実習や見学など多様な形態の授業が展開されている。基礎ゼミの研究成果を口頭とポスターで公開発表する機会と表彰制度も設けられており、学生のコミュニケーション能力アップと視野拡大を図っている。



成果発表会の様子

SLA-東北大学における学生による学生のための学習支援スタッフ



SLAメンバー同

SLAとは、Student Learning Adviserの略。主に学部3年生～大学院生の学生が集まり、全学教育を受ける学部1・2年生の学習サポートを行っている。コンセプトは学生同士の“学び合い”。「ともと学ぼう、ともに育とう、『ともそだち』」をキーワードに、川内ラーニング・プラザにて活動している。

このSLAを核としたSLA事業では、(1)個別対応型学習支援、(2)授業連携型学習支援、(3)SLA発信型学習支援、(4)自主ゼミ支援を行っており、先輩学生からレポートの書き方、学習方法、自主ゼミの進め方など気軽にレクチャーを受けることができる。



川内ラーニング・プラザは、マルチメディア棟1Fホールに開設されていて、SLAに関しての問い合わせ先である「SLAサポート室」と、SLAによる「学習相談窓口」を開設している。